

リンパ浮腫に係る報告等について

- リンパ浮腫の原因となる疾患等について、以下のような報告がなされている。

【リンパ浮腫の原因となる疾患について】

- 腋窩リンパ節群又は鼠径リンパ節群の郭清を伴う手術が必要な疾患は、上肢又は下肢のリンパ浮腫の原因となりうる。

【リンパ浮腫の病期等について】

- リンパ浮腫に対する、圧迫療法、圧迫療法、圧迫下の運動、体重管理を主体とした複合的治療は、リンパ浮腫の病期にかかわらず有効である¹⁾。
- 一方で、Ⅱ期以降の続発性リンパ浮腫は、非可逆性に分類され、皮下組織が線維化することで、蜂窩織炎を繰り返し、外観の変化やADLの制限が生じるため、より軽度の時期からの介入が重要である¹⁾。
- また、多層包帯法は集中治療期において用いられ、週5日以上、終日圧迫することが推奨されており、短期間での巻き直しが必要とされる¹⁾。

【参考：国際リンパ学会によるリンパ浮腫の病期分類】

- 0期 … リンパ液輸送が障害されているが、浮腫が明らかでない潜在性または無症候性の病態。
- I 期 … 比較的蛋白成分が多い組織間液が貯留しているが、まだ初期であり、四肢を挙げることにより治まる。
- Ⅱ期 … 四肢の挙上だけではほとんど組織の腫脹が改善しなくなり、圧痕が、はっきりする。
- Ⅱ期後期… 組織の線維化がみられ、圧痕がみられなくなる。
- Ⅲ期 … 圧痕がみられないリンパ液うつ滞性象皮病のほか、アカントーシス(表皮肥厚)、脂肪沈着などの皮膚変化がみられるようになる。